

第 13 回 日本胸部外科女性医師の会
—活動報告書—

代表世話人

齋藤 綾 (東邦大学医療センター佐倉病院 心臓血管外科)

世話人

林田恭子 (舞鶴共済病院 心臓血管外科)

神吉佐智子 (大阪医科大学 心臓血管外科)

はじめに

今年には WTS in Japan の活動が続ける上で大きな変化を迎えた年となりました。第 13 回目の開催となりましたが、欧州で胸部外科医として活躍されている Gunda Leschber 先生をお招きし、欧州・特にドイツにおける女性医師の活動の変遷および状況などについてご自身のご経験を交えご講演いただきました。第 71 回日本胸部外科学会大会長 荒井 裕国先生のご好意により展示会場の一角で広いオープンスペースを頂き、国内外総勢 28 名の参加者の方々と貴重なお時間を共有させていただきました。昨年アメリカにおける女性医師の現状と問題点に関するご講演に引き続き、欧州における女性医師の現状を見聞きすることができました。胸部外科領域へ興味を持つ女性医師が本邦において胸部外科医を目指す上での課題を考え、積極的・建設的に仕事や人生に取り組むヒントをつかむきっかけになったと自負しております。

また、今回は Luncheon session として開催させていただき、同会場で引き続き男女共同参画セッションが開催されました。

WTS in Japan

1歩先の未来へ

—世界に学ぶ胸部外科ライフ

元ヨーロッパ胸部外科学会会長の Leschber先生 に学ぶキャリア形成

講師：Dr. Gunda Leschber
ELK Berlin Chest Hospital, Germany

10月5日(金) 12:00～13:00

(受付開始**11:50**)

第13回 日本胸部外科女性医師の会

会場：グランドプリンスホテル新高輪

国際館パミール3階 Rapid Response会場

参加費：無料 食事あり

会場では引き続き男女共同参画セッションが行われます

主催：日本胸部外科女性医師の会
共催：日本胸部外科学会 / 日本医師会



参加申し込み不要
是非ご参加ください！



wtsjapan.umin.jp/

概要

日 時： 2018年10月5日（金） 12:00～13:00

会 場： グランドプリンスホテル新高輪
国際館パミール3階 Rapid Response 会場

講 師： Dr. Gunda Leschber
ELK Berlin Chest Hospital, Germany

テーマ：世界に学ぶ胸部外科ライフ

元ヨーロッパ胸部外科学会会長の Leschber 先生に学ぶキャリア形成

司 会：神吉佐智子先生（大阪医科大学 心臓血管外科）

会 費： 無料（昼食付き）

参加者一覧（敬称略）

池田知歌子	石川県立中央病院	心臓血管外科
石澤 愛	山形大学	心臓血管外科
今井 紗智子	東京医科歯科大学	呼吸器外科
尾崎 恭平	センチュリーメディカル	
神吉佐智子	大阪医科大学	心臓血管外科
久保奈津美	センチュリーメディカル	
小林 晶	がんセンター中央病院	呼吸器外科
齋藤 綾	東邦大学医療センター佐倉病院	心臓血管外科
塩見 海門	センチュリーメディカル	
高崎 千尋	武蔵野赤十字病院	呼吸器外科
徳永 滋彦	JCHO九州病院	心臓血管外科
徳永 千穂	筑波大学	心臓血管外科
中原 理恵	栃木県立がんセンター	呼吸器外科
永安 武	長崎大学	呼吸器外科
畑地 豪	長崎大学	呼吸器外科
花岡 伸治	大阪医科大学	呼吸器外科
林田恭子	舞鶴共済病院	心臓血管外科
平松祐司	筑波大学	心臓血管外科
深田 武久	兵庫県立尼崎総合医療センター	呼吸器外科
福井 勇	EBM	
福原 慎二	大阪医科大学	心臓血管外科
八木 葉子	八戸西病院西健診プラザ	心臓血管外科
山崎 祥子	京都府立医科大学	心臓血管外科
渡辺由里	エドワーズライフサイエンス	
Leschber, Gunda	ELK Berlin Chest Hospital	General Thoracic Surg
Chawannuch Ruaengsri	Washington University School of Medicine	心臓血管外科
Alper Toker	Istanbul University	Thoracic Surgery
Cameron Dorrans Wright	Massachusetts General Hospital	Thoracic Surgery
（50音順、アルファベット順、敬称略）		

講演内容

Gunda Leschber 先生より約 30 分にわたるご講演をいただくことが出来ました。

まずご自身の経歴紹介より始まりました。医学部ご卒業後 1994-1997 年の 4 年間の胸部外科修練を経て 1997 年に attending surgeon となられました。その後 2003 年から胸部外科（呼吸器外科）のチーフとなられ医局運営に携わられています（ELK Berlin Chest Hospital）。チーフになる過程で、Leschber 先生よりも先輩で mentor/role model となる女性外科医は周囲におられず上級男性医師を mentor として指示を仰ぎ医局チーフとしての足場を固めていかれました。その後 15 年が経過した中で、医局員の 70% が女性呼吸器外科医という驚異的な構成となっていますが、ご本人の本心としてはもう少し男性医局員が多くても良いかとお考えになられているようでした。女性においては「女性だし」「家庭・出産が」などと女性であることで積極的に仕事にかかわりにくい雰囲気がある中で、敢えて彼らの背中を後押しし情報交換・ネットワーク作り・相談窓口の場を提供する目的で FiT（Frauen in Thoraxchirurgie；ドイツ版女性医師の会）を 2006 年に設立されました。2007 年から ESTS の唯一の女性理事に抜擢され、2009～2011 年には理事長をお務めになられております。理事長講演の題名は'Wind of Change'でした。Leadership academy でご講演するなど女性医師にも leader としての教育が必要であることを唱えてこられました。

日本の現状について Leschber 先生が見聞きされてきた中で汲み取られたことは、（多分に日本文化に基づく意識が影響していることは理解した上で）日本では特に女性医師は子供を持つと離職し配偶者のサポートが得られにくい立ち居地に置かれやすくなることを指摘されました。

2008～2009 年にドイツ女性外科医に対して行ったアンケート調査の結果についてもご報告いただきました。そこで浮き彫りになったことは、仕事の内容に男女差が歴然としていること即ちアナムネ取り、IC、臨床一般は女性が受け持つことが多く、論文執筆、責任を伴う仕事、委員会での仕事などは圧倒的に男性が多く受け持っていることでした。また、生まれ変わった場合また外科医になることを選択するか否か、という問いに対しては条件を整えばという消極的な意見も含め「選択する」と答えた方が 80% 以上いたことについては Leschber 先生も大変心強く思われた様子が伺われました。

その後、参加者の皆様を交えて非常に活発な討論が行われました。その中で、Leschber 先生から、日本では定期学術集会中に処遇改善などを含む男女共同参画プログラムが組み入れられ学会の意識が高いとお褒めの言葉をいただきました。

おわりに

今回初めて日本胸部外科学会と連動した集会を開催したことで、男性・女性・職位に関わらずより幅広い方々にご参加頂くことができ、横断的な意見を掘り起こすきっかけになりえたのではないかと考えております。今後も日本胸部外科学会と有機的な連帯を維持させていただきつつ、胸部外科医を志す医師の一人一人が自信と喜びを持って仕事に望める環境造りの一端を担うことが出来れば幸いと考えております。

(文責：齋藤・林田・神吉)

会場風景



平成30年度会計報告

収入

前年度繰越金	906,178 円
日本医師会支援金(胸部外科学会より入金)	300,000 円
利息	10 円

合計	1,206,188 円
----	-------------

支出

第13回集会開催費用

講演者記念品	25,490 円
ポスター+チラシ 印刷1回目	4,363 円
ポスター印刷2回目	1,324 円
チラシ印刷2回目	2,613 円
ポスター+チラシ郵送(学会事務局宛て)	1,000 円
引き出し時間外手数料	108 円
会場費用(飲食)	88,678 円
振り込み手数料(会場費用)	432 円

ホームページ改正

トップページ追加、Newsページ追加 各修正	16,200 円
振り込み手数料(英文校正)	324 円

次年度繰越金	1,065,656 円
--------	-------------

合計	1,206,188 円
----	-------------

平成31年1月23日
林田恭子